

とちぎ夢大地応援団活動報告（令和元年5月18日実施）

佐野市 多田地区「再生農地の刈り払い」

令和元年5月18日(土)、佐野市多田地区で、「とちぎ夢大地応援団」活動を行いました。応援団に参加した人と、地元の柴田保全会の会員の皆さんと関係者を合わせて25名が参加し、再生農地の刈り払いに取り組みました。

応援団活動は、農業農村の持つ豊かな地域資源を守るため、都市住民の作業ボランティアを地域住民が協働で農地の再生に当たる事業です。

同地区では、賀茂別雷神社周辺の再生農地の草刈りを春と秋に実施しており、今年で7年目に入りました。当初は荒れ放題だった土地が、活動を通じて整備が進み、イノシシの被害等も大きく軽減されました。

参加者はこの日、全体約4ヘクタールのうち、山際の約2ヘクタールの草刈りに取り組みました。農業用ため池周辺に繁茂した雑草を中心に、刈り払い機を駆使して黙々と作業を行いました。午前中いっぱい作業をした後、昼食を囲んで参加者同士で意見交換会等交流を深めました。

ボランティア団体「ナルク栃木」の事業文化部長を務める鈴木忠男さんは、「私は農家の三男なので、農村が廃れていく姿を見ると悲しい。活動を通して少しでも力になればと思う」などと話していました。柴田保全会の会員で賀茂別雷神社宮司を務める毛利昭一郎さんは「活動を通して獣害は確実に減った」と成果を語りつつ、「水田をつくっていた1戸が、高齢のためにやめることとなった。今後、これらの農地をどう活用するか、地域で良く話し合っていきたい」と話していました。



▲参加した皆さんで記念撮影を行いました。5月らしい晴天に恵まれました！



はじめに、栃木県農村振興課副主幹土屋さんより参加したみなさんへご挨拶がありました。「今、再生農地に皆さんの力が必要です」と力強くエールを送りました。また、「怪我などがないよう十分気を付けて作業を行ってください」と心配りも忘れずに労いの言葉もありました。



作業前の農地の様子です。雑草が生い茂り、さながらジャングルのようです。また、傾斜が多く足場がとても悪い場所でした。これからどの程度まで草刈りが進むのかとても不安な気持ちになりました。



端から丁寧に作業を開始しました。参加した皆さんは刈り払い機の扱いに慣れており、どんどん作業がはかどりました。また、良く周りを見ながら危険にも十分注意して安全に作業を進めて行きました。



午前中には、ここまで草刈りが進みました。始めと比較すると達成感でいっぱいになります。柴田保全会の毛利さんも大変感謝していました。



楽しみにしていた昼食の時間です。この日はカレーライスが振る舞われ、美味しくいただきました。また、中にはお替わりや大盛りを平らげる猛者もおりました。



最後に意見交換会を行いました。農地の現状について説明があり、今後将来的にどのような農地を望むのか意見されました。また、参加した方からは、フェスの開催や足利フラワーパークで集客した多くの人たちを誘客する等、多様なアイデアが多く飛び出しました。他にも農地で栽培した野菜狩り体験等、今後の計画に反映される内容ばかりでした。